

新岡垣風土記

第450回

ミャンマー（ビルマ）と岡垣⑧

—ミャンマーへの戦没者慰霊の旅—

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

2013年5月、福岡空港から、ミャンマーのマンダレー（ミャンマーの中央部、かつて王宮があった所）への直行便を利用した観光ツアーがあった。

このツアーに私達夫婦と知人の2夫婦も参加した。

私の叔父と知人の1人の叔父が、ビルマで戦死したことは、前に紹介した。

以前から、彼と「ビルマ（ミャンマー）に行ってみたいね」と話していた。

このツアーはマンダレーから南下し、ヤンゴン（かつてのラングーン）までの観光をした。

どこかで叔父たちの供養をする場所があればいいなと思って、現地のガイドに相談したら、「観光予定地のバガンに日本人戦没者の慰霊地がある」と教えてくれた。

バガンでの慰霊地は、「インパー

ル作戦」に参加した3師団のうちの「弓師団」の戦没者の慰霊地だった。私たちの叔父は「菊」と「龍」の部隊なので、慰霊の場所としては適さないかなと思った。しかし、このツアーでは、ここ以外に慰霊地はないといわれ、ここで慰霊することにした。

私たちは線香を持参していたので、現地の花屋で花束を買って、3夫婦で戦没者の冥福を祈った。

この旅行から帰って間もなくして、10月に福岡県遺族連合会主催で、「ビルマ戦没者慰霊巡拝団」が編成されることを知った。

5月に行ったらばかりだからどうしようかと思っただが、慰霊するところも多いだろうと思って、参加の申し込みをした。

同年10月25日から8日間、前記の慰霊団に参加した。総勢20名だった。ミャンマーのヤンゴンから、ペ

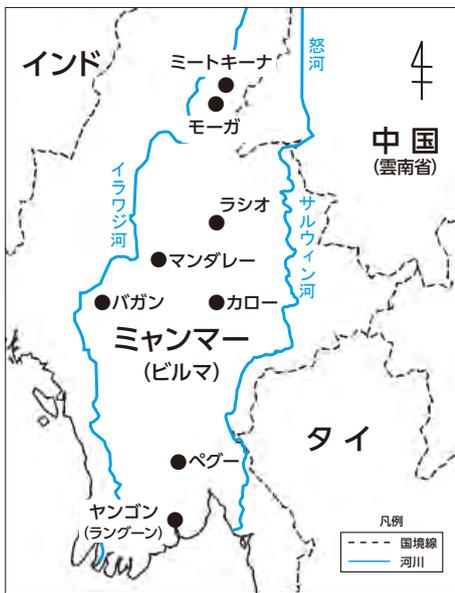
グー、ミートキーナ、マンダレー、カローを廻った。途中3カ所（ヤンゴンとミートキーナ、カロー）で慰霊式を行った。ヤンゴンには日本人墓地があり、その一角に、福岡県戦没者の慰霊碑があった。そこで慰霊式を行った。同じ墓地の一面に、2008年に亡くなった中村一雄さん（『ビルマの竖琴』の水島上等兵のモデルとされた）の慰霊碑があった。モデルはいないということだったので、意外だった。

ロー周辺でも、戦没者が多かったという。カローで宿泊するホテルの広場で、慰霊式をした。雨だったので、テントの中の式だった。次の日、ヤンゴンに向かった。ヤンゴンでの夕食会で、伝統舞踊などを観賞した。『ビルマの竖琴』の伴奏による舞踊もあった。

ヤンゴンの商店街の楽器店で、『ビルマの竖琴』を見つけたので、記念に購入した。

つづく

次の慰霊地のミートキーナは、菊兵団の守備隊が英印（イギリスとインド）軍に撃滅させられたところだった。ここを流れるイラワジ河の砂浜で、慰霊式を行った。ここで、慰霊の言葉を述べたのは、中間市戦没者遺族会長の倉田賢次さんだった。倉田さんの父はミートキーナの西南のモーガで戦死された。菊8904部隊だったので、私の叔父の菊8908部隊と近いなと思った。最後の慰霊地のカロー（シャン州）に行った。日本軍の敗北部隊は、たいていシャン州経由で南下した。カ



▶ミャンマーで購入した「ビルマの竖琴」を持つ筆者